

第二学年学年だより

男女共生教育に取り組みました。

7月12日にうめかげレディースクリニックの助産師さん3人来ていただきました。
主に、デートDVと性についてお話を聞きました。

みなさんの感想文を読み、ほんとに心に響いてくれたのだと感じました。どれもいい感想だったので、載せたいと思ったのですが、スペースに限りがあるので、ピックアップして以下に載せています。

- ・助産師の人は、命の誕生を間近で見られていると聞いて、すごいなと思いました。それと同時に新しい命が失われる場面も何度も経験されていると聞き、なんとも言えない気持ちになりました。
- ・男性・女性関係なく嫌なこと、伝えたいことは、はっきり言えるようにならないといけないなと感じた。
自分で責任をとれるようになってから行動していかないといけないので、自分の人生を大切にしていこうと思いました。
- ・12歳で子供を産んだという話にびっくりしました。自分より年齢が下なのに、責任が本当にもてるのかなとか、相手の人も責任がもてるのかなと思いました。
- ・命の大切さや重みについて改めて知ることができました。
- ・一年生の時に命のことについて教えていただいたときのことは覚えています。道德と同じように自分のことばかり考えるのではなく、相手のことも考えなければならないし、今はせまい社会でまだ自分勝手な行動は通用するかもしれないけど、将来は広い社会になるにつれ、もう通用どころではないし、絶対にダメなことだと思いました。中2という学年で、先輩・後輩がいて、中だるみの時期で学校生活にも慣れてきたので、すこし浮かれてしまっていると感じていたので、講演で大切なことをたくさん話していただけたので、今後、今も考えながら生活していきたいです。
- ・妊娠をする重大さ、子供を産む大変さなどを改めて思いなおすことができました。将来のことも考えなければいけないし、まわりの人のことも考えて、自分のことも一番考えなければいけないのはすごく大変だなと思いました。
- ・自分だけで悩むのではなく、親に相談することも大事ということが分かりました。
- ・デートDVは男性・女性関係なく相手の気持ちを尊重したり、考えたりすることが大切なんだなと思いました。

- ・デートDVで、いやだと言われるのは人格を否定されているのではなく、その行動がいやだと言っているという話を聞いて、お互い自分の意見を話したり、聞いたりすると、デートDVも解消されていくことがあるんじゃないかと思いました。
- ・異性でも同性でも「相手の気持ちを考える」ということも大切にしなければならないが、「相手に嫌われてしまったらどうしよう」という思いで、自分の意見を言えない相手は、長く付き合える相手ではないから、自分の意見もはっきり言えて、しかも自分の意見を尊重してくれる相手、自分になれるように少しずつ変えていこうと思いました。
- ・今日の講演を聞いて、「リア充」になったから“幸せ”ではないと知った。私には、大切な友達がたくさんいるから、それだけで、「リアルに充実」しているんだなと改めて思った。
- ・僕が今生きているのは、お父さんお母さんがぼくのためにがんばって育ててくれたから、ごはんを食べるときも、僕の洗濯物をしてってくれているときも感謝したい。
- ・男子が下ネタとして笑いながら言っていたのが、「いややなー。きもいなー。」と思っていたけど、これはただの下ネタじゃなくて、大事なことだし、正しい知識を知らないといけないことなんだと分かりました。
- ・DVはDVでもいろいろなDVがあるとわかった。助産師さんたちのDVの演技を見て、お互いに尊重し合うべきということと、そんな小さいことでケンカが始まってしまうということを知った。
- ・DVって言ったら殴ったり蹴ったりする身体的な暴力だけだと思っていたけれど、言葉や金銭的な面での暴力っていうのもあるんだな、と初めて知りました。大人ってたまにすごくうざいこともあるけど、それは自分のことを思ってやっていることだから、それは理解しないとけないな、と思いました。
- ・自分が将来、他人と生きていくときに必要なことが分かった。自分が相手や他人を傷つけないためには、どんな行動をとればよいか分かった。思春期は個人差があると思った。
- ・下ネタっていつもおもしろおかしく使っていたけど、そんなに大事な言葉ってことを知らなかった。赤ちゃんを産むのに相当な費用がかかることを初めて知った。今回習ったことは、いつも悪ふざけで使っている言葉がとても多かった。
- ・自分が望まない妊娠をしてはいけないと、改めて理解しました。自分たちの勝手な行動で、命がなくなっていると聞いて、悲しくなりました。相談だったり、自分の気持ちをしっかり聞かれる大人たちがたくさんいることを知って安心しました。
- ・いくら仲のいいグループで「いやだ」とか「ごめん、無理」が言えるグループが本当の友達だと思った。私は今日の話を聞いて「いやだなあ」と思ったり、不快な気持ちになったりしたら、「やめて」と正直に言おうと思った。
- ・下ネタをみんなの前で言っている人がいたり、それを聞いていやだなあと思っていたので、そういう人が今日の話を聞いてあらためてくれたらいいなと思いました。

